

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／近藤真悟

人間の徳性、価値を問い直し 一隅を照らす人間を育て続けたい

創 立130周年、再興50周年にあたる本年は、建学の原点に立ち返るべき特別な年です。本学は、明治維新以降、急速な西洋化が進むなか、日本人としてのアイデンティティなくして真の発展はない、という考えのもと、神道を根幹に、伝統的な文化や学問の究明を目的として明治15年に開学しました。戦後、GHQの占領政策により廃学となりましたが、卒業生の熱き想いが政財界を動かし、昭和37年に再興を果たします。日本人としての本質を問い、それを体現した人間を育むというのが、今も変わらぬ本学の思いです。

現在の日本もまた混沌とした状態にあります。グローバル化が叫ばれ、大規模な変化を求められています。しかし、単に入学式を9月に合わせるといった制度上の問題だけで対応できないのではないのでしょうか。私たちはまず、日本の歴史・伝統を理解し、自国の文化や精神を身につけた人材を養成し、それを発信しうる人間の養成こそが真のグローバル化に繋がると確信しています。

今日ほど海外で働く日本人が多い時代もありますが、ビジネスの話をするれば雄弁でも、仕事を離れ、芸術や歴史、哲学の話題になると途端に寡黙になるという日本人も多いと思います。自国に誇りをもてない人間が尊敬されることはありません。いっぽうで大震災に際しては、すべてを失ったなかでも食糧を分け助け合う、人間としての尊厳をなお失わない被災者の方々の姿がありました。そうした、知性だけではない、人間としての徳性、価値を問い直したいと思います。

こういった問題意識のもと、本学は伝統に基づく学問体系を発展させながらも、教育の改善を重ねてきました。例えば、日本人としての教養や知性、自覚を促す科目群。そして、職業観や人生観をしっかりとった人材を養うため、専門教育とキャリア科目を融合させたコースも設置しました。また、学問を学ぶ者の心構えを記した本居宣長の書にならい、「初学^{ういまな}び」という科目を設けるなど初年次教育にも力を入れています。起居寢食を共にする寮生活も道德的応用能力の養成という面で大切にしています。

皇學館大学
学長
清水 潔



【学長プロフィール】しみず・きよし●1948年生まれ。皇學館大学文学部卒業。同大学院文学研究科国史学専攻修了。皇學館大学史料編纂所教授、同大学文学部教授、文学部長などを経て、2011年より現職。博士(法律学)。専門は日本古代史。

【大学プロフィール】1882年、皇學館創設。1962年皇學館大学開学。文学部(神道学科、国文学科、国史学科、コミュニケーション学科)、教育学部(教育学科)、現代日本社会学部(現代日本社会学科)の3学部6学科。

本学の卒業生は、神職、教職、福祉職、金融やサービス業など幅広い場で活躍していますが、彼らには一隅を照らす人間になつてほしい。その人がいることで場が明るくなるとか、温かくなる、あるいは、あの人に任せたら安心だと思われるような存在です。そうやってそれぞれが、その職域を照らすことで、日本全体が光り輝くことを願います。自身の出世や幸福のためだけではなく、公のことに貢献するような、高い志をもつ人を育てたいと思っています。